

人に伝えることで伝わってくることがある 教えることで教えられるものがある

人生とは不思議なできごとの連続だと思えます。なにごとかをして全くその反応が返ってこないことは、ほとんどありません。反応がないと思っ
ているのは、十分に返ってきていることに気づけないだけではないかとさ
え思えます。そのことを仏教を開かれたお釈迦さまは、「縁起の法」とし
て私たちに示されました。縁起の法というと、むずかしいことのように思
われるかもしれませんが、すべてが関係性のなかで生起し、存在している
ことを明らかにしたものでした。そして、お釈迦さま以来数知れぬ人びと
が、それぞれの多様な体験と思索を通して、そのことの真実性を実感して
きたのではないのでしょうか。

ひとが生きるなかで切実に伝えたいと思うことの一つに、子育てのとき
の「人生の生き方」があると思えます。しつてもそのひとつです。しつけ
とは、漢字で「躰」と書くようにそれを身につければ、そのひとが美しい
と多くの人びとが思えることだったのでしよう。けれどもこのしつけを次
代に伝えることは、並大抵のことではありません。価値観の多様化してい
る現代は、なおさらにむずかしくなっているように思われます。まして、
ものの考え方を伝えていくというのは、さらに困難になっています。

親子といっても生きてきた時間が違います。まず決定的に違うのは体験
の差です。生きてきた環境も違います。世代間の断絶といわれてきましたが、
それは人類の歴史のなかで営々と繰り返されてきたことでした。

それにも拘らず人びとは、願いをこめて子をはじめとして、人びとに伝
えようとしてきました。何故でしょうか。それは伝えよう、教えようとし
たことが無駄ではなかったと体験的に知らされるからではないかと思いま

す。

例えば親が子に何かを伝えようとして、素直に聞いてくれる子供はめつ
たにいません。反発が返ってきたり、無視されることも決して少なくない
のではないのでしょうか。それでもめげずに伝えようと親はするのです。そ
れは自分自身の体験があるからです。かつて親に反発した過去から知らさ
れてくるのです。未熟な思いで反発していたみずからの愚かさに人びとは
長い年月をかけて気づかされてくることが多いように思います。まさに断
絶しようとした関係性に教えられてくるのです。かつて、ご自身の親に罵
詈雑言を浴びせるような手紙をくださった方がおりました。ここまで書か
なくても思っただけですが、数年たつて親が亡くなったとき、葬儀
の最中に泣き続けていて、火葬場では釜の前で遂に泣きくずれてしまつた
息子さんがおられました。

全く同じことが伝える側、教える側にもいえるように思います。伝える
のだ、教えるのだと思ひ込んで頑張っていたのに、教えられ、伝えられて
いたのは自分自身の方であつたと気づかされたことはないでしょうか。教
えよう、伝えようとの思いが強いほど、結果としては教えられ伝えられて
いた事実には、より深く気づかされるのではないかと思います。これが人生
の妙というものでしょうか。

伝えること、教えることはむずかしいことです。先ず何よりも、その内
容を熟知し、身につけていなければなりません。感性の異なる他人に共感
されるなど、夢のまた夢なのかも知れません。しかし、その悪戦苦闘を通
して、人びとは教えられてきたのではないのでしょうか。育てようと努めて
きたことで、育つてきたのは我が身であつたことを。長い人生の果てにつ
かみ得るものも、そのようなものであるように思えます。